KIORITZ

共立農用洗浄機

取 扱 説 明 書

型 式

WE357
WE357L

⚠ 警告
ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。 取扱説明書の指示内容を守ってください。 守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

目　次

安全にご使用いただくために 3

1 付属品の確認 7

2 各部の名称 8

3 作業の準備 9
3-1. 組み立て 9
3-2. 動力噴霧機の準備 9
3-3. エンジンの準備 11
3-4. 輸送・移動 11
3-5. 農薬の準備 11

4 噴霧作業 12
4-1. 作業の開始 12
4-2. 噴霧作業 13
4-3. トリガランス（洗浄用） 14
4-4. ノズル 15
4-5. 作業の終了 15

5 点検・整備 17
5-1. 定期点検作業表 17
5-2. 各部の点検・整備 17

6 故障診断表 20

7 保管 22

8 仕様 23
8-1. 散布（吐出）ホースの圧力降下図表 23
8-2. 主要諸元 24

安全にご使用いただくために

警告表示について

⚠ 危険	⚠ 警告	⚠ 注意
その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。	**その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。**	**その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。**

その他の表示について

	丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表します。

重要
重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている製品の使用、点検、保守、保管に関する重要な注意事項です。

シンボルマークについて

シンボルマーク	意味	シンボルマーク	意味
	ご使用前に取扱説明書を読み、正しく作業すること		「挟まれ」に注意すること
	作業中は保護具を必ず着用すること		回転部の「巻き込まれ」に注意すること
	通気の悪い場所で製品を使用しないこと		「毒性」に注意すること
	「火災」に注意すること		「高温部」に注意すること
	薬害や環境汚染に十分に配慮し、薬液は必ず使い切ること		

安全にご使用いただくために

重要なお知らせ

⚠ 警告

製品をご使用になる前に、取扱説明書を必ずお読みください

取扱説明書



- **この取扱説明書には、製品の組み立てや操作、点検・整備に必要な事項が書かれているので、よく読んで理解してください。**
- **この取扱説明書は、いつでも読めるように保管してください。**
- **製品の改良のため、予告なしに内容を変更することがあります。**
- **使用している図は説明をわかりやすくするため、現品と異なる場合があります。**
- **損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から購入してください。**

事故や重傷を負う原因となります。

製品の使用目的以外の使用禁止

- **この製品は洗浄または液剤散布作業に使用してください。**
- **本書に記載されている用途以外に使用しないでください。**

事故や重傷を負う原因となります。

製品の改造禁止

- **製品を改造しないでください。**

事故や重傷を負う原因となります。

点検・整備をしていない製品の使用禁止

- **定期的に点検・整備をしてください。**

事故や重傷を負う原因となります。

製品の貸与、譲渡

- **製品を貸すとき、譲るときは、この取扱説明書も渡してください。**

事故や重傷を負う原因となります。

製品の使用者



- **体調不良、疲労している、酒類を飲んでいる、薬物を服用しているなど、体調が万全でないときは使用しないでください。**
- **次のような人は使用しないでください。**
  - **妊娠している人**
  - **取扱説明書の内容を理解していない人**
  - **16 歳未満の人**
  - **農薬の影響を受けやすい人**

事故や重傷を負う原因となります。

保証書

- **使用目的以外の作業による製品の故障、あるいは改造による故障の場合は、メーカー保証の対象外になりますのでご注意ください。詳しくは保証書をお読みください。**

健康管理

- **休憩をとりながら余裕を持って作業をしてください。**
- **長時間の連続作業は避け、２時間を限度としてください。**

健康障害を受ける恐れがあります。

安全にご使用いただくために

⚠ 警告

保護具の着用

- **農薬を使用するときは、適切な衣類と正しい保護具を身に付け、農薬に直接触れないでください。洗浄機として使用する場合は、フェースシールドを付けてください。**

  農薬に触れたり吸引したりすると、薬害事故の原因となります。

- **首にタオルを巻くことや、腰手ぬぐいは、しないでください。**

  回転部に巻き込まれて、事故の原因となります。

- **作業中に着た服は、他の衣服と別に洗ってください。**

  薬害事故の原因となります。



製品の使用環境・作業環境

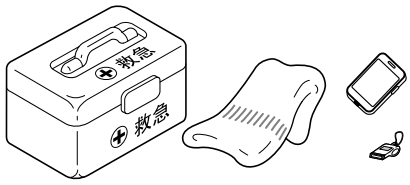
- **次のような場合は製品を使用しないでください。**
  - **降雨時や落雷の恐れがあるとき**
  - **急傾斜地や足元が不安定で滑りやすい場所**
  - **夜間や視界が悪い場所**

  転落や滑落、誤った操作などにより事故や重傷を負う原因となります。

事故やケガへの備え

- **事故やケガに備え、下記の用具を用意してください。**
  - **救急箱（応急手当用）**
  - **タオルや手ぬぐい（止血用）**
  - **呼子や携帯電話（外部との連絡用）**

  応急手当や外部への連絡ができず、症状が悪化する恐れがあります。



発火・発煙・火災への備え

- **発火・発煙・火災に備え、消火器やシャベルを用意してください。**
- **エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、まず製品から離れて、身体の安全を確保してください。**
- **周囲に類焼しないようにシャベルで砂を掛けるか、消火器で消火してください。**

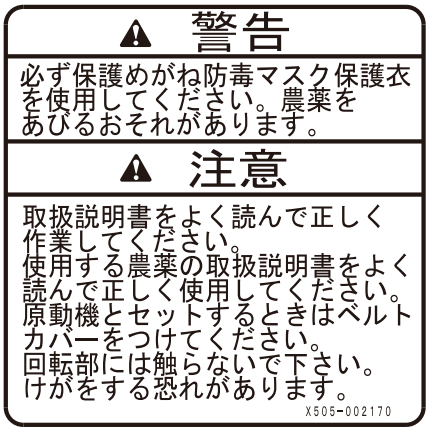
  あわてて対処しようとすると、火災やその他の傷害の拡大につながります。

安全にご使用いただくために

警告表示ラベル

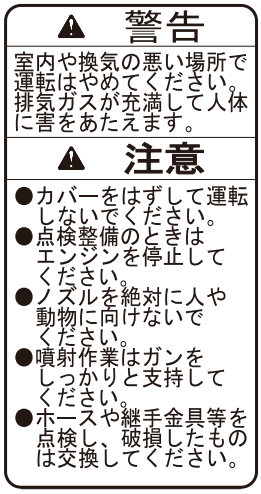
❍ 本書で説明している製品の警告表示ラベルを示しています。ご使用前にラベルの意味を理解してください。
❍ ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店からラベルを購入し、下図に指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。

1



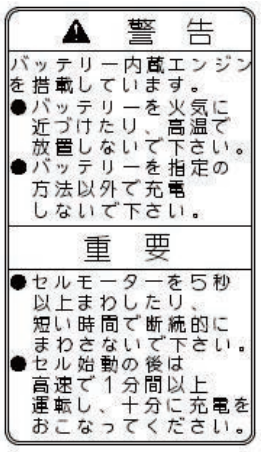
部品番号：X505-002170

2



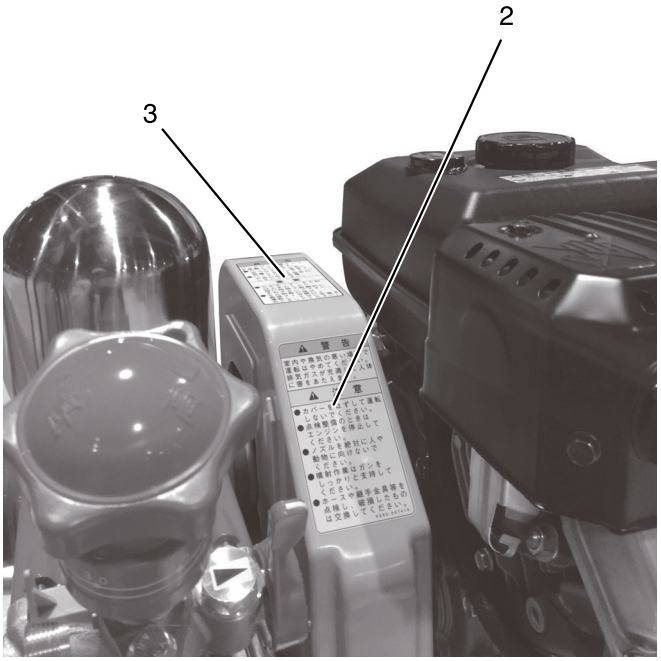
部品番号：X505-007410

3



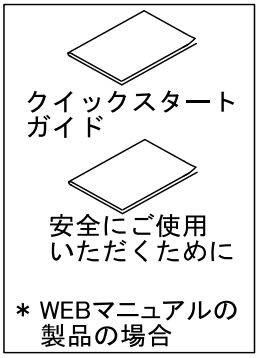
部品番号：X505-010820
3は、WE357Lに貼り付けています。



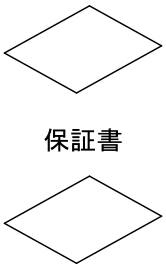


1. 付属品の確認

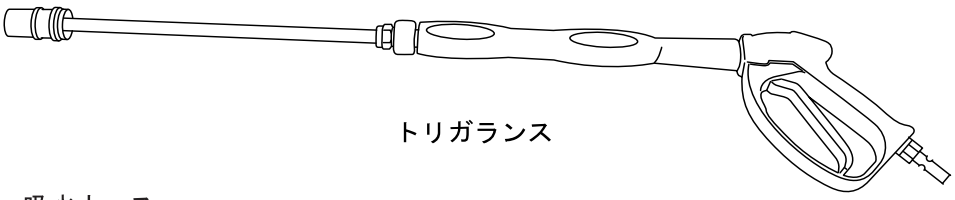
❍ 欠品や破損などがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

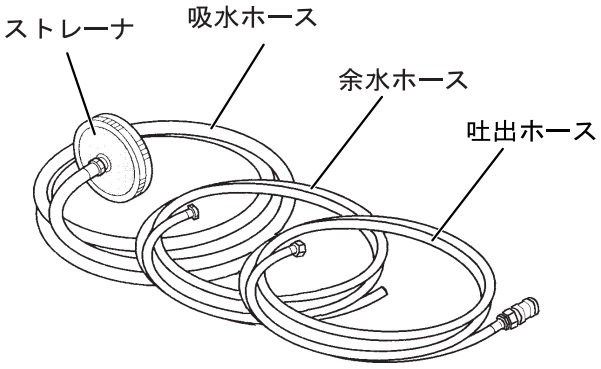






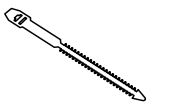


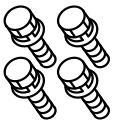






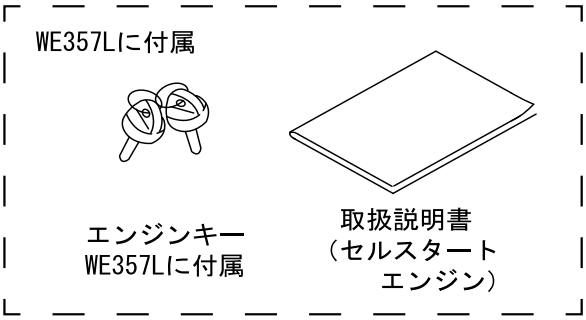






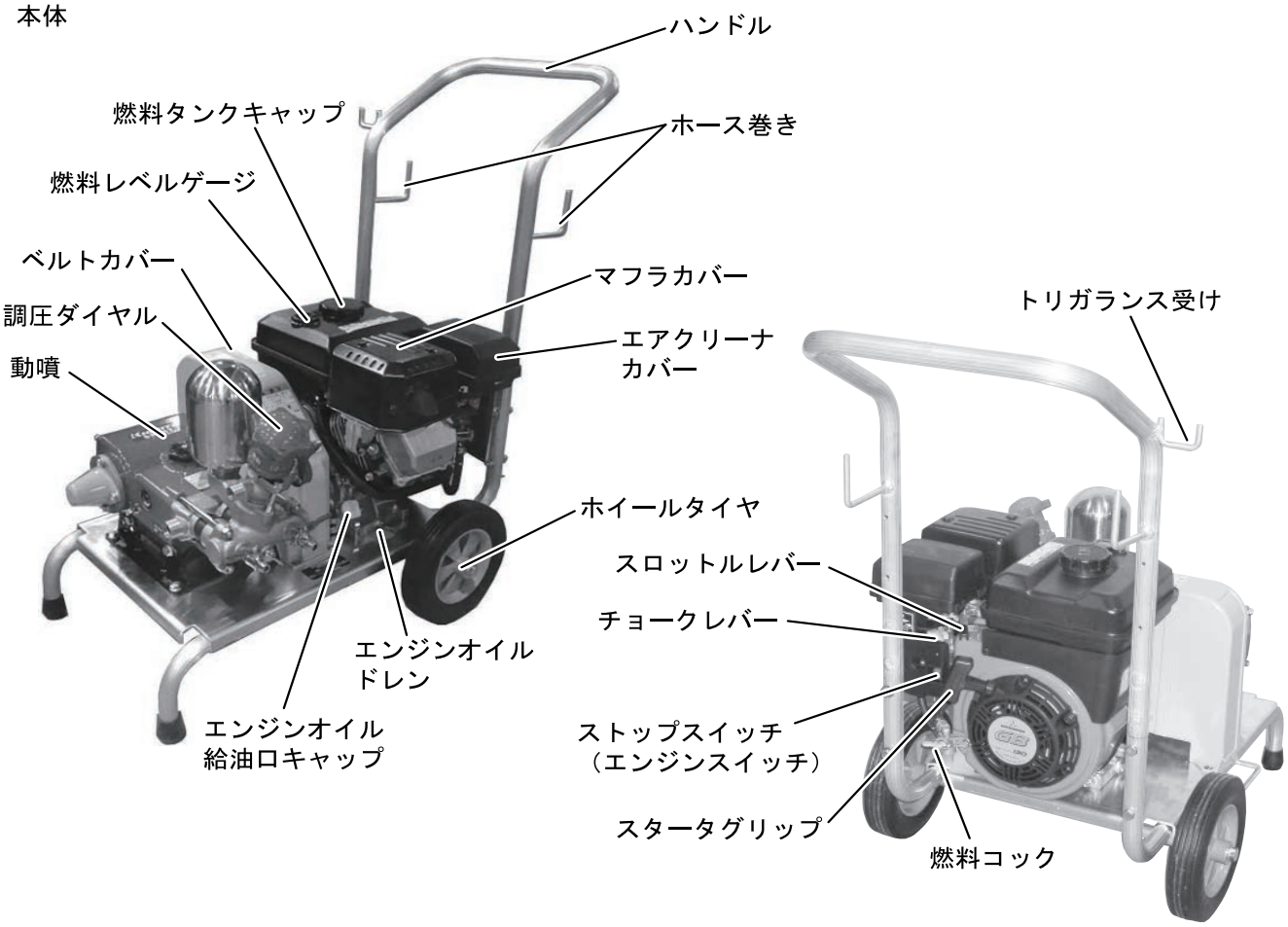




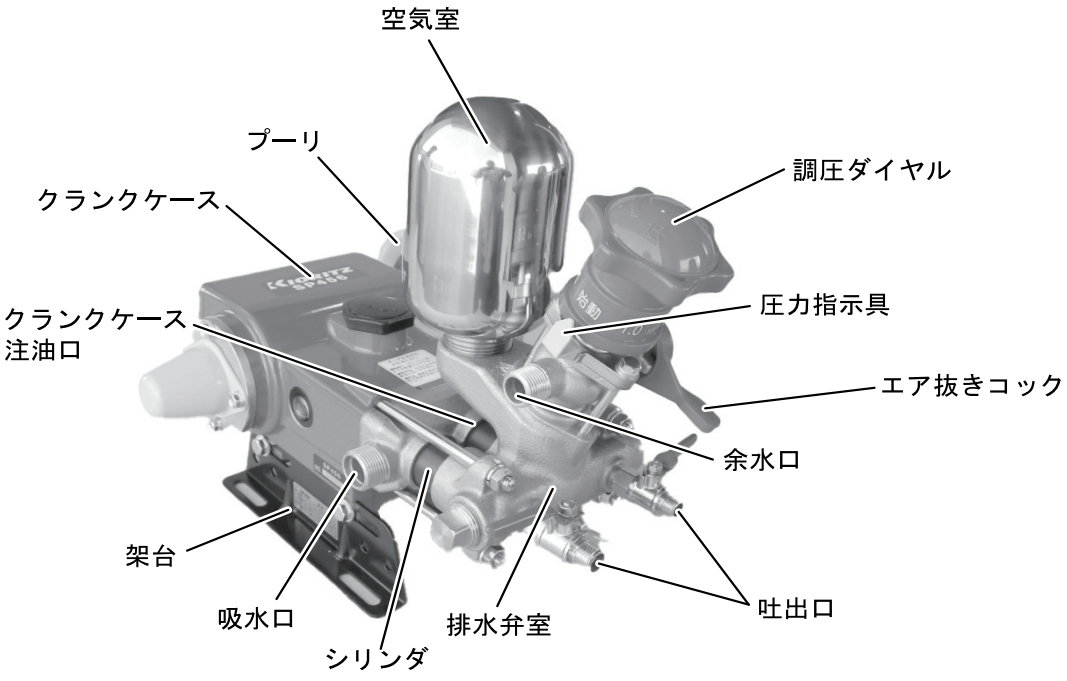


2. 各部の名称

本体


ハンドル
燃料タンクキャップ
ホース巻き
燃料レベルゲージ
ベルトカバー
マフラカバー
調圧ダイヤル
エアクリーナ
カバー
動噴
トリガランス受け
ホイールタイヤ
スロットルレバー
チョークレバー
エンジンオイル
ドレン
ストップスイッチ
（エンジンスイッチ）
エンジンオイル
給油口キャップ
スタータグリップ
燃料コック

動噴


空気室
プーリ
調圧ダイヤル
クランクケース
圧力指示具
クランクケース
注油口
エア抜きコック
余水口
架台
吐出口
吸水口
排水弁室
シリンダ

3. 作業の準備

3-1. 組み立て

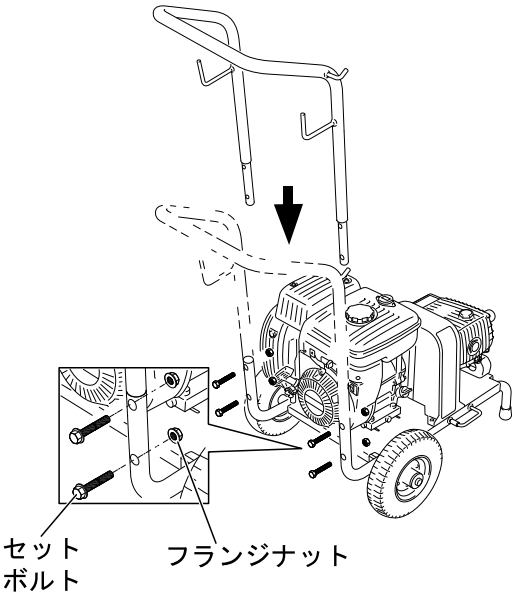
⚠ 警告

❍ **取扱説明書をよく読んで、正しく組み立ててください。**
誤って組み立てた製品を使用すると、事故や重傷を負う原因となります。



■ハンドル / 吐出ホースとトリガランスの組み立て

ハンドルの組み立て

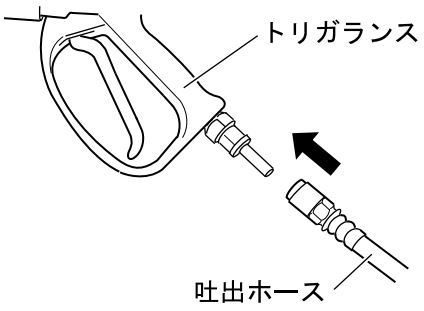


⚠ 注意

❍ **使用中にネジが外れないようネジ部の締め付けは確実にしてください。**
ケガをする恐れがあります。

本体とハンドルは分解された状態で梱包されています。

1. セットボルトとフランジナットでハンドルを本体に組み付けてください。



吐出ホースとトリガランスの組み付け

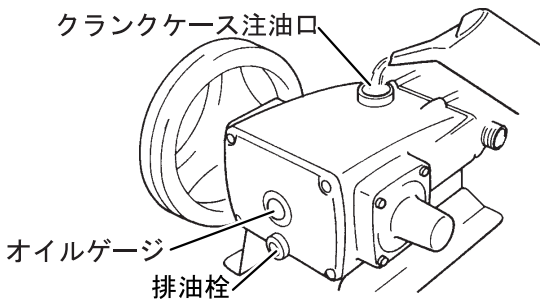
⚠ 注意

❍ **使用中に吐出ホースが外れないようワンタッチカプラは確実に接続してください。**
薬害事故やケガをする恐れがあります。

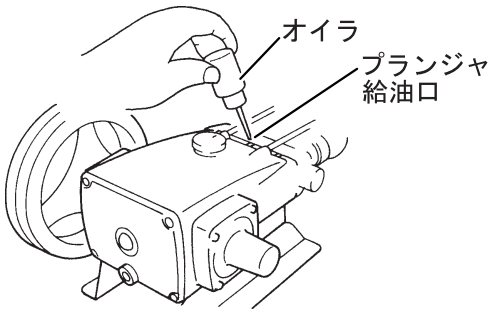
1. 吐出ホースをトリガランスに押し込み接続します。ワンタッチカプラがロック状態になるまで確実に押し込んでください。接続が不完全だと、ワンタッチカプラがロックしていないため、吐出ホースが抜けてしまいます。

3-2. 動力噴霧機の準備

■オイルの補給



1. クランクケース注油口のふたを取り、オイルゲージの中央にあるマークまでエンジンオイル（SC、SD または SE 級、SAE#30）を入れます。
   * マークよりオイルを多く入れると、運転中にオイルが吹き出ることがあるので注意してください。

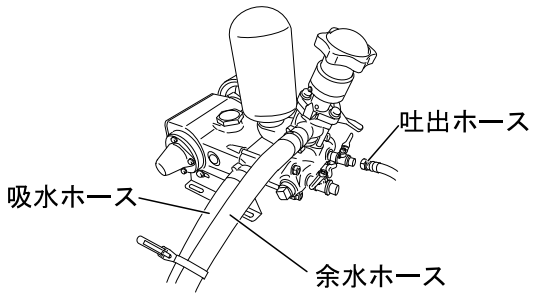


2. 付属のオイラの先を切り、プランジャ給油口から 10 滴ほど給油します。
   * 給油によりプランジャのシールの寿命が長くなります。

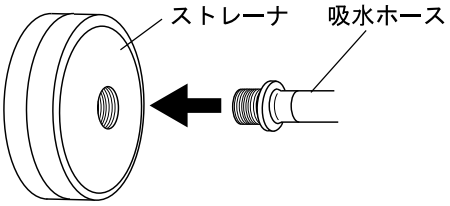
■ホースの接続

重要
❍ 吐出口の継ぎ手ネジは ISO 規格です。旧タイプのネジを使用するときは、お買い求めの販売店にお問い合わせください。 ❍ ホースを接続するときは、強く締めすぎないでください。パッキンを損傷することがあります。

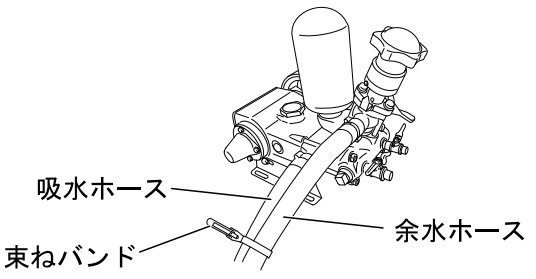
⚠ 警告
❍ **ホースのヒビ割れ、亀裂、摩耗、硬化など、または接続金具のズレ、ゆるみ、漏れなどが認められたときは、直ちに新品に取り替えてください。** ❍ **ホース破損を防ぐためホースは適正圧力範囲内で使用してください。** 薬害事故や傷害を負う原因となります。



1. 吸水ホースを吸水口に接続する。（エアを吸い込まないようしてください。）
2. 余水ホースを余水口に接続してください。



3. ストレーナにゴミが付いていたら、取り除いてください。
4. 吸水ホースにストレーナを組み付けてください。
5. 吐出ホースを、吐出口に接続してください。
6. 吐出ホースを接続したら、吐出ホースをホース巻きに巻き付け、トリガランスをトリガランス受けに掛けてください。



7. 吸水ホース・余水ホースは水流であばれると危険ですので、付属の束ねバンドで束ねてください。

3. 作業の準備

3-3. エンジンの準備

重要

❍ エンジンの取扱説明書を参照して準備（燃料やエンジンオイルなど）をしてください。

3-4. 輸送・移動

⚠ 注意

❍ **製品を輸送・移動するときには、次のことを守ってください。**

- **エンジンを停止する**
- **エンジンポンプの燃料タンクを空にする。**
- **使用後に輸送・移動するときには、エンジンが冷えるまで待つ**
- **製品に衝撃を与えない**

事故や傷害を負う恐れがあります。

3-5. 農薬の準備

⚠ 警告

❍ **農薬を使用するときは、次のことを守ってください。**



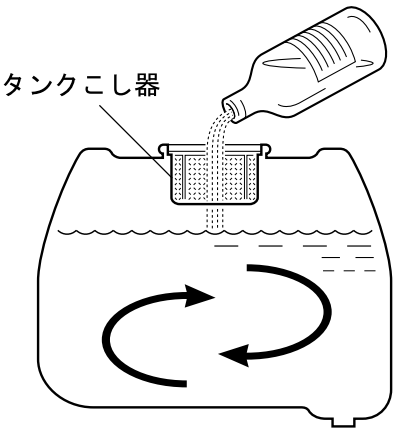
- **法令を遵守して農薬を使用する**
- **農薬ラベルをよく読み、記載されている事項を確認してから農薬を使用する**
- **製品ならびに農薬の知識を持たない人は、農薬を使用しない**
- **農業用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用して、農薬に直接触れない**
- **農薬が目に入らないように注意する**
- **農薬の種類によっては、かぶれを生ずるときがあるので注意する**
- **かぶれやすい人は、使用を控える**
- **農薬が目に入ったときは、すぐに水洗し、眼科医の手当てを受ける**
- **誤って飲み込んだときは、吐き出し、すぐに医師の手当てを受ける**
- **体に異常を感じたときは、すぐに医師の診察を受け、使用していた農薬の種類を告げる**
- **防除対象作物以外への飛散がないよう環境へ配慮する**
- **農薬は残らないよう調製し、必ず使い切る**
- **作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいと洗眼をする**
- **子供の手が届かない場所に農薬を保管する**



農薬の誤った使用は、重大な薬害事故の原因となります。

❍ **飲料水源、河川、湖沼から直接給水することは避け、専用の給水栓や薬液補給用貯水槽から給水してください。**

薬害を引き起こす原因となります。



- 薬液タンクで調製し、外部にこぼさないようにして、十分かくはんしてください。

重要

❍ 薬剤は濃度が均一になるように溶かしてください。固まりが残ると、ノズルの目詰まりの原因になります。

4. 噴霧作業

4-1. 作業の開始

⚠ 警告

❍ エンジンの取扱説明書をよく読んで、指示を守ってください。
❍ エンジンセット動噴を使用するときは、次のことを守ってください。

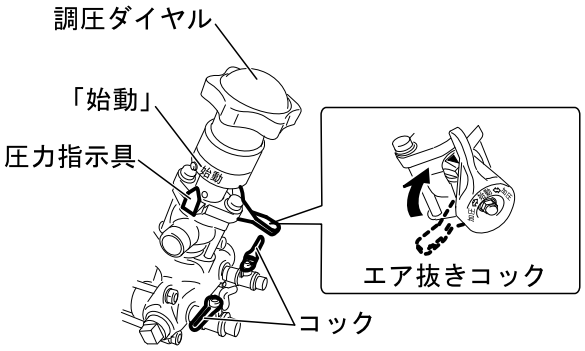
- エンジンの排出ガスには、有毒な成分が含まれているので、屋内など通気の悪い場所で運転しない
- ハウス内防除をするときは、製品を屋外に定置する
- 運転中や停止後しばらくの間は、マフラなどの高温部に触れない

中毒、火傷の原因となります。

❍ 引火性・発火性の強い液剤を、使用しないでください。
❍ 油性の農薬を使用するときは、火気を近づけないでください。
❍ 燃料を扱うときは、タバコを吸ったり火気を近づけたりしないでください。

火災、事故や重傷を負う原因となります。

■動噴の手順

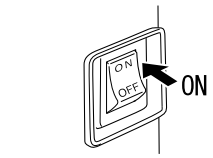


1. 吐出口のコックをすべて閉じます。
2. 圧力指示具に、調圧ダイヤルの「始動」の位置を合わせます。
3. エア抜きコックを「始動」（減圧）にします。
4. 吸水ホースと余水ホースの先端を、水または薬液の中に入れます。

＊ 使い初めや長期間使用しなかった場合、エア抜きコックを開いても吸水しないことがあります。このときは、吸水ホースのストレーナを外し、ホースに直接水を送り込んでください。（呼び水）

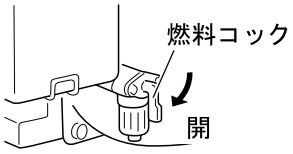
■エンジンの手順

＊ エンジンの取扱説明書をよく読んでください。
＊ WE357L については別紙「セルスタートエンジン取り扱いのご注意」を読んでください。



エンジンセット動噴

1. エンジンスイッチを「ON」にします。



2. 燃料コックを開きます。



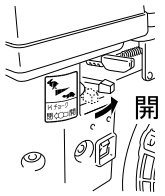
3. スロットルレバーを「高速」の方へ少し動かします。



4. チョークレバーを「閉」へ動かします。



5. スタータグリップをしっかり握り、勢い良く引きます。



6. エンジンが始動したら、チョークレバーを「開」へ動かします。

4-2. 噴霧作業

⚠ 警告

- **作業をする場所をよく調べ、作業関係者以外の人・動物・養蚕・養蜂・他の作物などが近くにないことを確認してください。**

  無防備な第三者の薬害事故や、環境被害の原因となります。

- **薬液の分散を防ぐため、風のない温度が安定している朝、または夕方に散布してください。**

  気温が上がると、薬液が空気中に上昇したり気化したりします。また、風に乗って予期しない方向へ薬液が飛び、薬害事故の原因となります。

- **風が強いときには散布作業をしないでください。**

  風向きが急に変わり、予期しない方向へ薬液が飛ぶことがあります。

- **燃料はエンジンを停止し、エンジンが冷えてから補給してください。**
- **薬液はタンクからあふれるほどの量を入れないでください。また、こぼれた薬液はすぐに拭き取ってください。**

  こぼれたり漏れた薬液は、放置しておくと薬害の原因となります。

- **散布作業中は、喫煙や飲食をしないでください。**

  タバコや飲食物に付着した農薬が、それらを介して体内に入る恐れがあります。

- **あらかじめ除草・ゴミなどの管理作業をしてください。**
- **トリガランスを人・動物・電機製品・本機に向けないでください。**
- **農薬散布直後のほ場に無防備で入らないでください。**
- **薬液が乾くまでは「立入禁止」の表示を置いて、第三者の立入を禁じてください。**

  薬害事故の原因となります。

- **製品や原動機に絡み付いた草などを取り除くときは、原動機を停止してください。**

  挟まれや巻き込まれなどの傷害の原因となります。

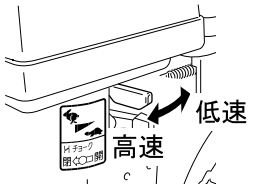
- **調圧ダイヤルで圧力調整がうまく出来ないときは、販売店に調整を依頼してください。決して調圧ダイヤル上部のキャップを外して、圧力調整ネジで調整しないでください。**

  規定圧力以上となって製品が損傷し、事故や重傷を負う原因となります。

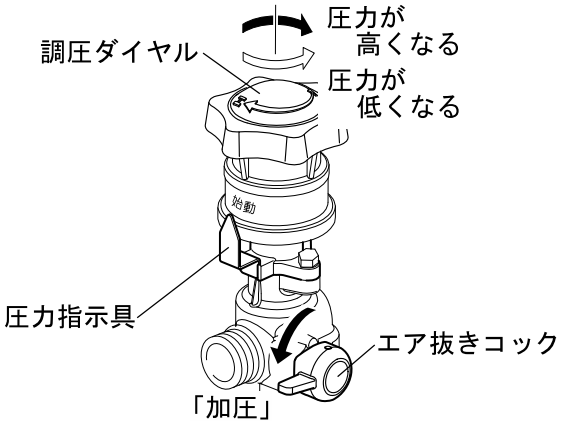
4. 噴霧作業

重要

- 5 分間以上の空運転をしないでください。故障の原因となります。
- ホースが絡まったり、ねじれたりしないようにしてください。
- 洗浄を行なう前に、吐出ホースをホース巻きから外してください。
- 大型貯水槽などから吸水し長時間使用すると、空気室の空気が水に溶け、抜けてしまうことがあります。動噴の故障の原因となりますので、2 時間毎に吸水ストレーナを水から出し、余水ホースから水が出なくなるまで運転してください。



1. エンジンが始動すると、動噴が運転され動噴内に水または薬液が循環します。
2. 余水ホースから勢い良く水または薬液が出ていることを確認します。
3. エンジンセット動噴は、スロットルレバーでエンジンの回転数を調整します。



4. エア抜きコックを「加圧」位置に合わせます。

重要

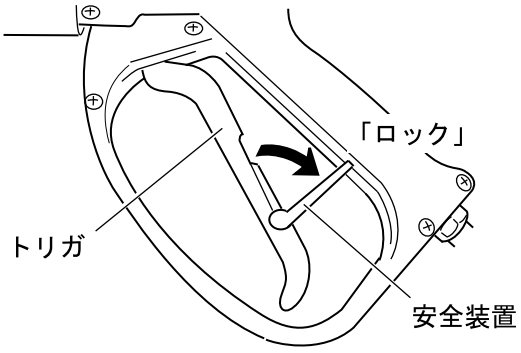
- **エア抜きコックは、「加圧」または「始動」位置へ確実に合わせてください。**
  圧力が上がらなかったり、エア抜きコックが故障したりします。

5. 必要な圧力まで調圧ダイヤルを回します。
   * 調圧ダイヤルのノッチは、1 段目は約 1 MPa (約 10 kgf/cm^2) で、2 段目以降は約 0.5 MPa (約 5 kgf/cm^2) ずつ変化します。

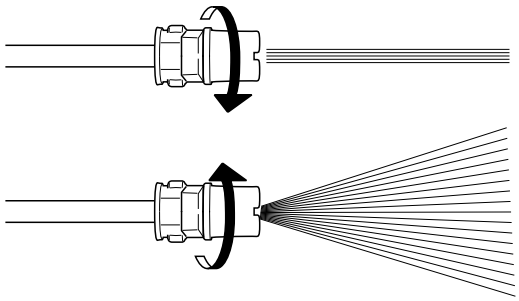
4-3. トリガランス（洗浄用）

⚠ 注意

- **最初の数秒間、ホース内の空気が抜けます。反動がきたとき、思わぬ方向へ動くことがありますので、トリガランスをしっかり保持してください。**



- トリガランスのトリガを引くと水を噴射します。
- トリガランスには安全装置がついています。安全装置をロックの位置にすると、噴射できない状態でトリガをロックします。作業をしないときは、安全装置をロックの位置にしてください。
- 作業中は、トリガランスのグリップ以外は持たないでください。思わぬ方向へ水が噴射されることがあります。
- 作業中は、トリガランスの先を見てください。
  作業以外の場所を見るときは、作業を中断してください。
- 洗浄機から離れるときは、エンジンを停止してください。



噴射パターンの変更

噴射パターンはノズル先端を回すことにより調節します。

4-4. ノズル

重要

- **ノズルの取扱説明書をよく読んで、指示を守ってください。**
- **動力噴霧機として使用するときは、次のことを守ってください。**
  - 動噴の吐出圧力を使用するノズルの仕様に合わせる
  - 一般農薬を使用する
- **ご不明な点は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。**

農薬を散布する場合は、以下のノズルを別途ご用意ください。

	WE357	WE357L
吐出圧力	1.5 MPa	1.5 MPa
吐出量	15 L/min 以下	15 L/min 以下

- ノズルの取扱説明書をよく読んで、指示を守ってください。

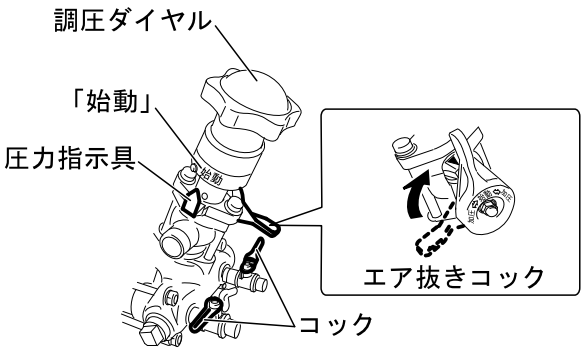
4-5. 作業の終了

⚠ 注意

- **製品を停止しても、配管やホース・ノズルの内部に残留圧力がかかっていることがあるので、人を近づけないでください。**

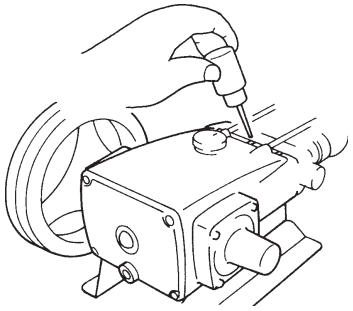
  事故や傷害の恐れがあります。

■動噴の手順



1. トリガランスのトリガを戻し吐出を止めます。
   散布ノズル使用時は、ノズルのコックを閉じます。
2. 調圧ダイヤルを「始動」の位置に戻します。
3. エア抜きコックを「始動」（減圧）位置に合わせます。
4. 吐出口コックを閉じます。

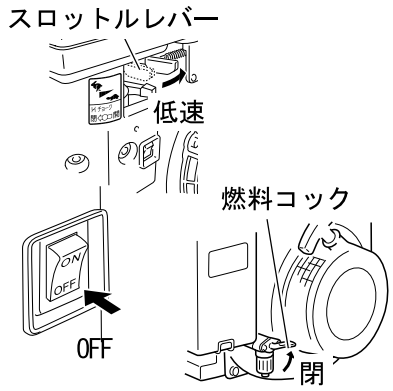
4. 噴霧作業



重要
❍ 本機を農薬の散布に使用したときは、必ず使用後に動噴および配管内を十分洗浄してください。作業後の洗浄が不十分な場合、動噴の寿命が短くなります。また洗浄機として使用するときに洗浄するものに農薬がかかります。

5. 吸水ホースを清水に入れて噴霧し、動噴の内部、ホース、ノズルを清掃します。
6. 動噴内の水を抜くため、調圧ダイヤルを「始動」の位置にし、吸水ホースを水から出して余水ホースから空気が出るまで運転します。
   * 空運転の状態となりますので、5 分以上運転しないでください。
7. 運転中に、プランジャ給油口からオイルを 10 滴ほど給油します。
8. 吸水ストレーナを清掃します。

■エンジンの手順



* エンジンの取扱説明書をよく読んでください。

エンジンセット動噴

1. スロットルレバーを低速にします。
2. エンジンスイッチを「OFF」にします。
3. 燃料コックを閉じます。

5. 点検・整備

⚠ 警告

❍ **エンジンが停止し、冷えた状態で点検・整備をしてください。**
火傷の原因となります。

重要

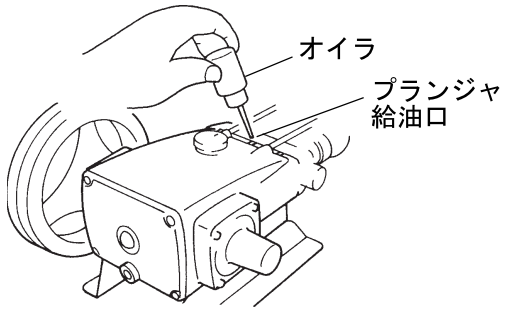
❍ 製品が正常に機能して、安全にご使用いただくために、定期的に点検整備をしてください。エンジンはエンジンの取扱説明書も参照して点検整備をしてください。
❍ 毎月、毎年の点検・整備をした日を記録してください。
❍ 点検・整備には専門的な知識が必要です。ご自分で点検整備ができない場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
❍ 販売店にご相談するときは製品の状況と合わせて「型式名」、「製造番号」をお知らせください。
❍ 1 年に 1 回以上は、お買い求めの販売店に定期点検を依頼してください。
❍ オイル交換後の廃液は家庭用ゴミと異なり産業廃棄物に該当します。みだりに廃棄すると、法律により罰せられます。専門の廃棄物処理業者で処理してください。

5-1. 定期点検作業表

点検箇所	点検整備事項	点検時期
プランジャ	給油	5 ～ 10 時間使用毎
クランクケース	オイル交換	初回は 50 時間使用後、以降 100 時間毎
調圧ダイヤル周り	給油	使用時期前
ピストンパッキン	点検・交換	使用時期前
継ぎ手パッキン	点検・交換	毎年
V ベルト	点検・交換	使用時期前
ホース	点検・交換	使用前

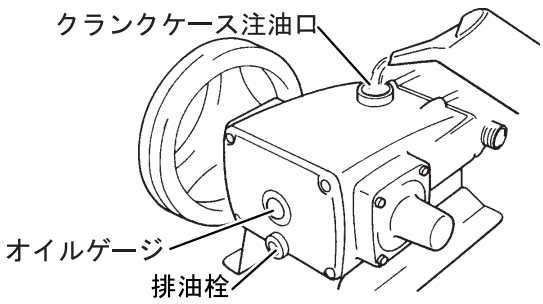
5-2. 各部の点検・整備

■プランジャ部分の給油



- 5 ～ 10 時間使用毎に、付属のオイラでプランジャ給油口から 10 滴ほど給油してください。

■クランクケースのオイル交換



- 初回 50 時間使用後、以降 100 時間使用毎に、クランクケースのオイルを交換してしてください。

＊ オイルはエンジンオイルの SC, SD または SE 級、SAE#30 を使用してください。

5. 点検・整備

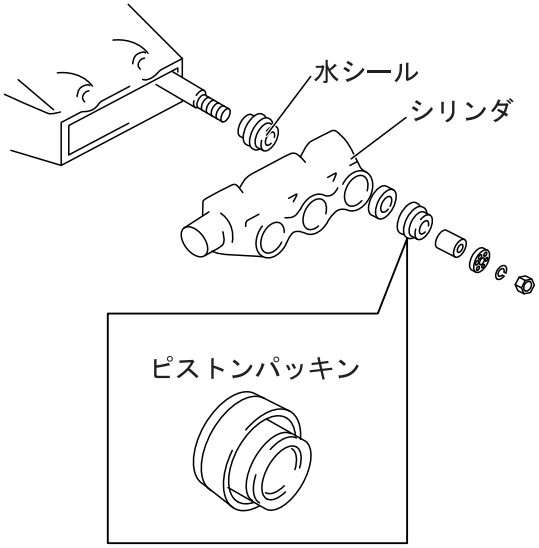
■調圧ダイヤル周りの給油



- 調圧ダイヤルの摺動部に、付属のオイラで適量を給油してください。

＊ 使用時期毎におこなってください。

■ピストンパッキン・水シール

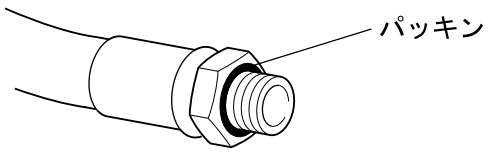


重要

❍ ピストンパッキンや水シールを交換するときは、向きを間違えないようにしてください。

- 長時間使用し、吸水しなくなったり、圧力が上がらなくなったりしたときは、ピストンパッキン・水シールが摩耗している可能性があります。シリンダを外し、ピストンパッキン・水シールを交換してください。

■ホース・継ぎ手パッキン

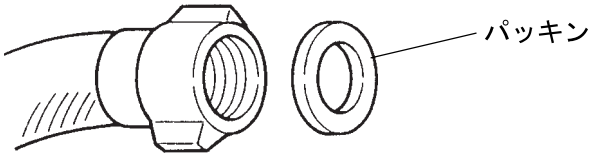


ホース

重要

❍ ホースは古くなるにつれ硬化し亀裂が起こりやすくなります。
使用前にホースの点検を実施してください。

- 各ホースを点検してください。ホースが損傷、摩耗していたら交換してください。

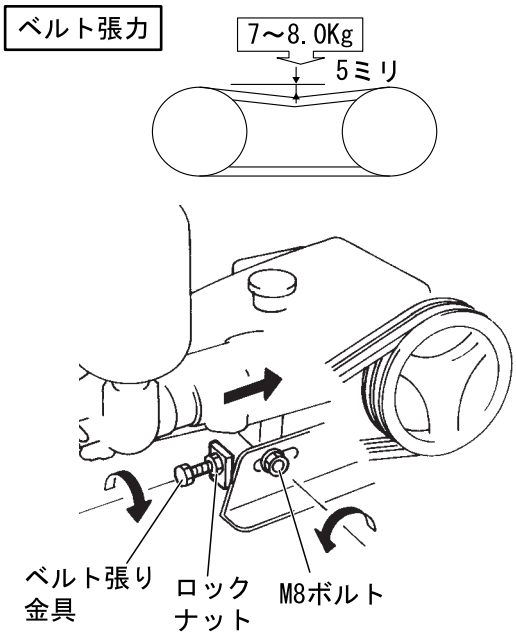


継ぎ手パッキン

- 継ぎ手パッキンが損傷、摩耗していたら交換してください。
- 長期保管後、最初に使用するときに点検してください。

5. 点検・整備

■ Ｖベルト



Ｖベルトが伸びるとスリップすることがあります。そのときは、次の手順でＶベルトの張りを調整してください。

1. 動噴本体と架台を取り付けている M8 ボルト（2 本）を緩めます。
2. ベルト張り金具のロックナットを緩めます。
3. ベルト張り金具（ネジ）を右に回して動噴本体を移動させます。
4. Ｖベルトが適度に張ったら、2 本の M8 ボルトを締めて動噴を固定します。
5. ロックナットを締めてベルト張り金具を固定します。

＊ Ｖベルトを張りすぎると動力ロスの原因となるので、張りすぎないでください。

6. 故障診断表

- 点検・整備には専門的な知識が必要です。ご自分で点検・整備や故障対策ができない場合や、表中に記載されていない故障のときは、むやみに製品を分解しないで、お買い求めの販売店にご相談ください。
- 販売店にご相談するときは製品の状況と合わせて「型式名」・「製造番号」をお知らせください。
- 補用品や消耗品は、必ず純正部品または指定品を使用してください。他社部品あるいは指定品以外の部品を使用すると、故障の原因となる場合があります。
- 製品や部品を廃棄するときは、販売店にご相談するか、自治体の指導に従ってください。

故障内容	原因	処置
吸水しない、または途中から吸水しなくなった。	1. 吸水ホースの破損または折れ曲り。 2. パッキンの破損、もしくは脱落、または吸水ホースとニップルの締め付け不良。 3. 吸水ストレーナの水面浮上。 4. 吸水ストレーナ周囲にゴミ付着。 5. 吸・排水弁に砂・ゴミ付着。 6. 吸・排水弁の磨耗。 7. 吸・排水弁が固着して作動しない。 8. 水シールの磨耗。 9. シリンダ、弁室の締め付けナットのゆるみ。 10. 調圧ダイヤル、エア抜きコックが加圧状態のまま。	1. 交換または伸ばす。 2. 交換またはパッキンが入っていることを確認し、十分締めなおす。 3. 浮き上がらないように固定する。 4. ゴミを取り除き、清水でよく洗う。 5. 清水でよく洗い落とす。 6. 新品と交換する。 7. 呼び水をする。弁と弁座の合わせ面をきれいに洗う。 8. 新品と交換する。 9. ナットを交互に増し締めする。 10. 調圧ダイヤル、エア抜きコックを「始動」位置に合わせる。
余水から気泡が出る。	1. 吸水ホースの取り付けネジのゆるみ。 2. 吸水ホース用パッキンの磨耗・損傷。 3. 吸水ホースに穴があいている。 4. シリンダ、弁室の締め付けナットのゆるみ。 5. 水シールの磨耗。	1. パッキンが入っていることを確認し、締めなおす。 2. 新品と交換する。 3. 新品と交換する。 4. ナットを交互に増し締めする。 5. 新品と交換する。
圧力が上がらない。	1. 調圧弁、弁座の合わせ面にゴミ付着。 2. 調圧弁、弁座の磨耗。 3. ノズル噴霧量が多く、余水がない。 4. ピストンパッキンの磨耗。 5. エア抜きコックが「始動」位置。	1. 清水でよく洗い落とす。（弁座は表・裏の両面とも使用できます） 2. 新品と交換する。 3. 全吐出量の 10% 以上を余水に戻す様に、ノズルを交換する。 4. 新品と交換する。 5. エア抜きコックを「加圧」（減圧）位置にする。
圧力の変動が大きい。	1. 吸水ストレーナ周囲にゴミ付着。 2. 吸水ホースの折れ曲り。 3. 吸・排水弁の変形・損傷。 4. 吸・排水弁に砂・ゴミ付着。 5. 調圧弁、弁座の損傷。 6. 調圧弁、弁座に砂・ゴミ付着。 7. V ベルトがスリップしている。 8. 原動機の回転にムラがある。 9. 空気を吸い込んでいる。 10. 空気室内の空気が抜けきってエアクッションががなくなっている。 11. ピストンパッキンの磨耗。	1. ゴミを取り除き、清水でよく洗う。 2. 折れをなおす。 3. 新品と交換する。 4. 清水でよく洗い落とす。 5. 新品と交換する。 6. 清水でよく洗い落とす。 7. ベルトを張りなおす。 8. 原動機を調整する。 9. ホース金具を締めなおす。パッキンを確認する。 10. 吸水ストレーナを空中に取り出して、余水ホースから水が出なくなるまで空気を吸わせる。 11. 新品と交換する。
圧力を調整したのち、噴霧を始めると圧力の降下が激しい。	1. 下記のいずれかが原因で、余水量が吸水量の 10% 以下（吐出過多）。 （1） 動噴回転数が不足している。 （2） 噴口が磨耗して噴霧量が多すぎる。 （3） 噴頭数が多すぎる。 2. 調圧弁押さえの動きが悪い。 3. 調圧弁・弁座の磨耗。	1. （1） 回転数を上げる。 （2） 新品と交換する。 （3） 数を減らす。 2. 分解して掃除をする。 3. 新品と交換する。

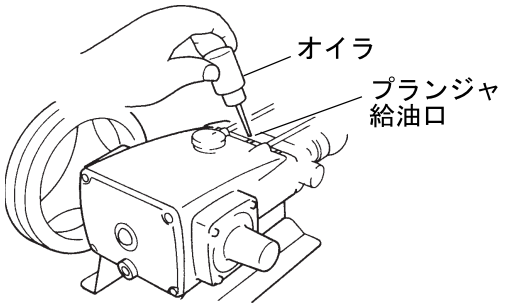
6. 故障診断表

故障内容	原因	処置
クランクケース内で異常な音がする。	1. 連接棒の締め付けボルトが緩んでいる。 2. プーリーとキーとのガタ。 3. クランクケース内の部品脱落、破損。 4. ベアリング破損。	1. 増し締めする。 2. 交換する。 3. 点検・補充または交換する。 4. 新品と交換する。
クランクケース内に薬液が入る。	1. プランジャ用オイルシールの不良。 2. プランジャの不良。	1. 新品と交換する。 2. 新品と交換する。
圧力は下がらないが、余水量が多くノズルから出る量が少ない。	1. 散布（吐出）ホースが長すぎる。 2. 散布（吐出）ホースが細すぎる。	1. ホースを短くする。 2. ホースを太くする。

7. 保管

重要
❍ 寒冷時に保管するときは、凍結による破損を防ぐため、各部の水を完全に抜いてください。凍結による破損は、保証の対象外となります。

❍ 製品を長期間（30 日以上）保管するときは、次の手順で整備をしてください。



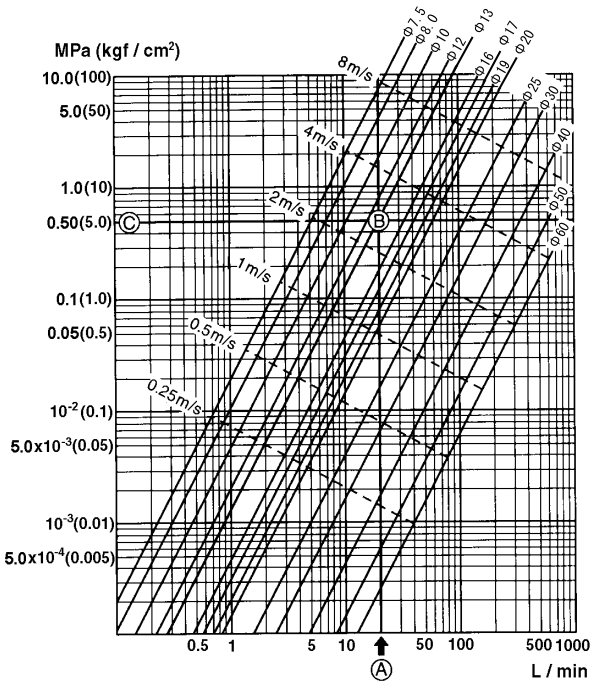
1. きれいな水を数分間噴霧し、配管内各部を洗浄します。
2. 吸水ホースを外して、1 分間空運転をして完全に水抜きします。

重要
❍ 水抜きをするときの動噴の空運転は、5 分以下としてください。空運転による破損は、保証の対象外になります。

3. 運転中に、プランジャ注油口からオイルを 10 滴ほど注油します。
4. 原動機の取扱説明書を参照して、原動機の保管手順を実施します。
5. 製品を子供の手の届かないホコリの少ない乾燥した場所に保管します。

8. 仕様

8-1. 散布（吐出）ホースの圧力降下図表



* このヘッドロス図表はホース 100 m が基準です。

例えば、内径 13 mm のホース 100 m を使用し、毎分 20 L の水を流したときの圧力降下を調べる場合は

（1） 20 L の縦線を上方へ上がってゆく :A。
（2） 斜線の φ 13 の線を出し降下圧力を読みとる :B。
（3） この交点より横に線を出し降下圧力を読みとる。従ってこの場合の降下圧力は約 0.5 MPa（約 5.0 kgf/cm^2）となる :C。

〈計算式〉
h = fV^2/2g X 100/D
f = 摩擦損失係数 : 0.02
V = 流速（m/s）
g = 重力加速度 9.8（m/s^2）
D = パイプ内径（m）
h = 100 m 当たりの圧力損失水頭（m）

一般に圧力の降下は

（1） 流速の二乗に比例する。流速はホース断面積に反比例する。
（2） 長さに比例する。

以上の外、ホース内面が粗い程大きく、コック、ホース継ぎ手でも圧力降下がある。

ホース 100 m 当たりの圧力降下・MPa(kgf/cm^2)

		ホース内径 (mm) 呼び					
		8.5(2 分 5 厘・5/16")	10(3 分・3/8")	13(4 分・1/2")	16(5 分・5/8")	19(6 分・3/4")	25(ｲﾝﾁ・1")
流 量 (L/min)	5	0.25(2.5)	0.12(1.2)				
	10	1.10(11.0)	0.45(4.5)	0.14(1.4)	0.05(0.5)	0.02(0.2)	
	15	2.20(22.0)	0.90(9.0)	0.25(2.5)	0.09(0.9)	0.04(0.4)	
	20		1.80(18.0)	0.50(5.0)	0.19(1.9)	0.08(0.8)	0.02(0.2)
	30			1.30(13.0)	0.40(4.0)	0.18(1.8)	0.04(0.4)
	40			2.20(22.0)	0.72(7.2)	0.32(3.2)	0.07(0.7)
	50			3.40(34.0)	1.20(12.0)	0.48(4.8)	0.13(1.3)
	60				1.70(17.0)	0.70(7.0)	0.17(1.7)
	80				2.80(28.0)	1.30(13.0)	0.30(3.0)
	100						0.45(4.5)
	150						0.90(9.0)

吐出し揚程による圧力降下

上記ホースによる圧力降下のほかに、動噴の設置場所とノズルで散布している場所の高さの差（揚程 : H）によっても圧力降下が加算されます。

〈計算式〉
P = H/102
P'= H/10
P = 高さの差による圧力降下 : MPa
H = 高さの差 : m
P'= 高さによる圧力降下 : kgf/cm^2

8. 仕様

8-2. 主要諸元

項目			単位	WE357	WE357L
長さ × 幅 × 高さ （ランス、ホースを除く）			mm	830×520×820	
質量			kg	34	37.6
動力噴霧機	型式		-	SP357	
	回転数		rpm	750	
	常用圧力		MPa(kgf/cm^2)	5.0（50）	
	吸水量		L/min	21.6	
	プランジャ数		-	3	
	調圧弁		-	ダイヤルノッチ式	
	潤滑油容量		L	0.65	
	吐出	ホース	φmm×m	8.5×10	
		継ぎ手ねじ	-	G（PF）1/4	
	吸水	ホース	φmm×m	19×3	
		継ぎ手ねじ	-	G(PF)3/4	
	余水	ホース	φmm×m	13×3	
		継ぎ手ねじ	-	G(PF)3/4	
エンジン	型式		-	GB131LN	GB131LL
	排気量		mL	126	
	最大出力		kW(PS)	3.0 (4.2)	
トリガランス吐出量			L/min	19.9	

＊ この仕様は予告なしに変更することがあります。

メ　モ

メ　モ

メ　モ

株式会社やまびこ

〒 198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL　　:0120-176-181(製品・技術的な問い合わせ)
受付時間:弊社営業日　9:00～12:00 / 13:00～17:00

やまびこジャパン株式会社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL　　:0428-32-6181（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X780612-0000
(C) 2012 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。